月　日　名前　　／50点

【答え】

【中1】国語 文章テスト　説明文 1/2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

晴れた日に外へ出ると、自分の影がある。朝の影は長く、細く、遠くまでのびている。ところが昼になると、影は足もとに縮こまり、夕方にはまた反対の側へ長くのびていく。影の長さは、一日の中で大きく変わる。

なぜ変わるのか。影を作っているのは太陽の光だ。太陽が低い位置にあるとき、光は横からななめに差しこむ。すると、体にさえぎられた光の届かない場所は、地面の上で遠くまでのびる。太陽が高い位置にあるときは、光はほぼ真上から差す。さえぎられる場所は、足もとの小さな範囲だけになる。つまり、影の長さは、太陽の高さで決まる。

このことは、昔の人にとって、ただの面白い現象ではなかった。時計がなかった時代、人々は地面に棒を立て、その影の向きと長さで、おおよその時刻を知った。影がいちばん短くなるときが、太陽がいちばん高いとき、すなわち昼である。棒一本と地面があれば、それは時計になった。

影は、季節も教えてくれる。同じ昼でも、夏の影は短く、冬の影は長い。夏は太陽が空の高いところを通り、冬は低いところを通るからだ。昔の人は、昼の影の長さを毎日はかることで、一年の中でいちばん影が長い日と短い日を見つけ、季節のめぐりをつかんだ。カレンダーのない時代、影は暦でもあった。

私たちは今、時刻も季節も、画面を見れば分かる。だが、影が語っていることは、昔と少しも変わっていない。足もとの影が短くなれば昼が近く、長くなれば日が傾いている。ときには画面から目を上げて、自分の影を見てみるとよい。そこには、太陽と地球の関係が、そのまま映っている。

（この問題のための書き下ろし）

問一（十点）　影の長さは何によって決まると筆者は述べていますか。本文中から五字で抜き出しなさい。

太陽の高さ

問二（十点）　「朝の影は長く、細く、遠くまでのびている」とありますが、その理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　朝は太陽の光が弱く、影がうすくなるから。
イ　朝は太陽が低い位置にあり、光が横からななめに差しこむから。
ウ　朝は空気が冷たく、光がまっすぐ進まないから。
エ　朝は人の体が縮んでいて、影も細くなるから。

イ

問三（十点）　時計がなかった時代、人々はどうやっておおよその時刻を知りましたか。「～で」につながるように、本文中から二十字以内で抜き出しなさい。

地面に棒を立て、その影の向きと長さ

問四（十点）　「影は暦でもあった」とありますが、昔の人はどのようにして影から季節のめぐりをつかんだのですか。四十五字以内で説明しなさい。

昼の影の長さを毎日はかり、一年でいちばん影が長い日と短い日を見つけることでつかんだ。

問五（十点）　最後の段落で筆者が言いたいこととして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　画面で時刻を知るのは間違いなので、影で時刻を知るべきだ。
イ　昔の人のほうが、今の人よりも科学の知識が豊かだった。
ウ　影が語ることは昔と変わらず、そこには太陽と地球の関係が映っているので、時には影を見てみるとよい。
エ　影の長さは今では意味を持たないので、忘れてしまってよい。

ウ

月　日　名前

／50点

合計　／100点【答え】

【中1】国語 文章テスト　物語文 2/2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

転校生が来たのは、五月の連休が明けた月曜日だった。名前は森下さんという。先生に紹介されたあと、森下さんは窓ぎわのいちばん後ろの席に座った。私の席の、ななめ前だ。

昼休み、森下さんは弁当を自分の机で開いた。私たちはいつも、四人で机をくっつけて食べている。誰かが声をかけるだろうと思っていた。でも、誰も声をかけなかった。私も、かけなかった。転校生に話しかけるのは、なんだか目立つ気がした。

火曜日も、水曜日も、森下さんは一人で食べた。弁当を食べ終わると、窓の外を見ていた。校庭の桜は、もう葉だけになっていた。

木曜日、私は英語の教科書を忘れた。困っていると、ななめ前から、そっと教科書が差し出された。森下さんだった。「一緒に見る？」私は自分の机を前に寄せて、その日の授業を二人で受けた。森下さんの教科書には、前の学校の名前が書いてあった。

授業が終わって教科書を返すとき、私は「ありがとう」と言った。森下さんは「ううん」と首を振った。それだけだった。でも、そのあと私は、ずっと考えていた。森下さんが声をかけるのに、目立つとか、そんなことは関係なかった。困っている人がいたから、教科書を出した。それだけのことを、私は月曜日からずっと、できずにいた。

昼休みになった。私は自分の弁当を持って立ち上がった。三人が、「どこ行くの」という顔でこちらを見た。

「森下さん、一緒に食べない？」

声は、思ったよりも小さかった。でも、森下さんには聞こえたらしい。森下さんは、弁当のふたを持ったまま、しばらく私を見た。それから、机を少しだけ、こちらに寄せた。

窓の外の桜の葉が、風で揺れた。四人の机に、もう一つの机がくっついた。

（この問題のための書き下ろし）

問一（十点）　「私も、かけなかった」とありますが、その理由を「～から」につながるように、本文中から二十五字以内で抜き出しなさい。

転	校	生	に	話	し	か	け	る	の	は	、	な	ん	だ	か	目	立	つ	気	が	し	た		

問二（十点）　「校庭の桜は、もう葉だけになっていた」という一文の働きとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　季節が春の終わりであることを示すとともに、一人で外を見る森下さんのさびしさを景色に重ねている。

イ　桜がもう散ってしまったことを、私が残念に思っていることを表している。

ウ　森下さんが花よりも葉が好きだということを表している。

エ　学校の校庭が広いことを説明している。

ア

問三（十点）　「私は、ずっと考えていた」とありますが、「私」が気づいた森下さんの行動の理由を、本文中から十五字以内で抜き出しなさい。

困	っ	て	い	る	人	が	い	た	か	ら														

問四（十点）　「声は、思ったよりも小さかった」とありますが、ここから「私」のどんな気持ちが読み取れますか。四十字以内で説明しなさい。

声	を	か	け	る	と	決	め	た	も	の	の	、	ま	だ	目	立	つ	こ	と	へ	の	緊	張	や
迷	い	が	残	っ	て	い	る	気	持	ち	。													

問五（十点）　「四人の机に、もう一つの机がくっついた」という最後の一文の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　机の数が増えて教室がせまくなったことを説明している。

イ　森下さんが私たちの輪に入ったことを、机の様子で表している。

ウ　森下さんが自分の席を移動したことを説明している。

エ　私が森下さんの席に移ったことを表している。

イ

【中1】国語 文章テスト（100点）　説明文 1/2　答えと解説（1問の配点は問題の半分）

問一（十点）　答え：太陽の高さ

解説：第二段落の最後「つまり、影の長さは、太陽の高さで決まる」が根拠。「つまり」の後に段落のまとめが来る。

問二（十点）　答え：イ

解説：第二段落の「太陽が低い位置にあるとき、光は横からななめに差しこむ。すると～地面の上で遠くまでのびる」が根拠。ア・ウ・エは本文にない。

問三（十点）　答え：地面に棒を立て、その影の向きと長さ

解説：第三段落の「人々は地面に棒を立て、その影の向きと長さで、おおよその時刻を知った」が根拠。

問四（十点）　答えの例：昼の影の長さを毎日はかり、一年でいちばん影が長い日と短い日を見つけることでつかんだ。

解説：第四段落の「昼の影の長さを毎日はかることで、一年の中でいちばん影が長い日と短い日を見つけ、季節のめぐりをつかんだ」が根拠。夏は影が短く冬は長い、という前の文も理由として書けていればよい。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

①昼の影の長さを毎日はかった

②いちばん長い日と短い日を見つけた

問五（十点）　答え：ウ

解説：「影が語っていることは、昔と少しも変わっていない」「ときには画面から目を上げて～」が根拠。アは「間違い」とまでは言っていない。

【中1】国語 文章テスト（100点）　物語文 2/2　答えと解説（1問の配点は問題の半分）

問一（十点）　答え：転校生に話しかけるのは、なんだか目立つ気がした

解説：直後の「転校生に話しかけるのは、なんだか目立つ気がした」が根拠。声をかけない理由が、自分の側にある。

問二（十点）　答え：ア

解説：直前の「窓の外を見ていた」に続く景色の描写。花のない桜は、一人で食べる森下さんの姿と重なる。最後の場面で同じ桜の葉が「風で揺れた」と再び出てくる。

問三（十点）　答え：困っている人がいたから

解説：第五段落の「困っている人がいたから、教科書を出した」が根拠。「目立つとか、そんなことは関係なかった」と対にして述べている。

問四（十点）　答えの例：声をかけると決めたものの、まだ目立つことへの緊張や迷いが残っている気持ち。

解説：弁当を持って立ち上がる決意と、声が小さくなる緊張の両方を読む。月曜日からできずにいたことを、やっと行動に移した場面。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

①声をかけようと決めた（行動に出た）

②緊張や迷いがまだ残っている

問五（十点）　答え：イ

解説：「机を少しだけ、こちらに寄せた」から続く。「一緒に食べない？」への返事を、言葉ではなく机の動きで表している。第二段落の「四人で机をくっつけて」と対になっている。